京都市
CITY OF KYOTO

＜報道発表資料＞
（経済同時）

令和８年１１月２６日
京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

令和８年度京都市伝統産業技術功労者表彰式
及び京都市伝統産業「未来の名匠」認定式の合同式典開催

京都市では、１２００年を超える悠久の歴史の中で磨き抜かれた伝統産業の卓越した技と美を極め、永年にわたり伝統産業界を牽引してこられた方々を「京都市伝統産業技術功労者」として顕彰しています。また、今後の伝統産業界を牽引する担い手を育成するため、市内で活躍する優秀な伝統産業中堅技術者の方々を「京都市伝統産業『未来の名匠』」として認定しています。

この度、新たに１２名の方々を「京都市伝統産業技術功労者」として顕彰するとともに、１０名の方々を「京都市伝統産業『未来の名匠』」として認定し、表彰式及び認定式を合同開催します。

【合同式典概要】

- 日時　令和８年１２月１７日（木）午前１０時１５分～１１時３０分頃
- 場所　京都市役所　本庁舎４階　正庁の間
- 令和８年度京都市伝統産業技術功労者顕彰 被顕彰者
  - ・被顕彰者　別紙１のとおり
  - ・人　数　１２名
- 令和８年度京都市伝統産業「未来の名匠」 被認定者
  - ・被認定者　別紙２のとおり
  - ・人　数　１０名
- 出席者

  顕彰者、認定者、来賓、京都市長　松井孝治　他

● 式次第（予定）

- 開会
- 来賓紹介
- 顕彰１２名（技術功労者）
- 認定１０名（未来の名匠）
- 市長式辞
- 来賓祝辞
- 謝辞
- 閉会
- 写真撮影

● 作品の展示

京都市役所本庁舎地下連絡通路において、被顕彰者及び被認定者の作品を展示します。
展示期間：令和８年１２月１７日（木）～１２月２４日（木）

＜京都市伝統産業技術功労者顕彰記念作品展について＞

・開 催 日　令和９年２月２日（火）～７日（日）※予定
・場　　所　京都市勧業館「みやこめっせ」地下１階
　　京都伝統産業ミュージアム　MOCAD ギャラリー
・展示内容　今年度の伝統産業技術功労者の作品を展示

＜京都市伝統産業未来の名匠「技の披露展」について＞

・開 催 日　令和９年３月　※予定
・場　　所　京都市勧業館「みやこめっせ」
・展示内容　今年度の未来の名匠認定者の作品を展示

＜お問合せ先＞

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室
電話：０７５－２２２－３３３７

京都の伝統産業
Traditional Industries of Kyoto

（別紙１）

令和８年度京都市伝統産業技術功労者（敬称略、順不同）

【先染・織　部門】

▽ 奥島　進（おくしま　すすむ）（西陣織（製織））



力織機（シャットル織機及びレピア織機）の製織に長年従事しており、主に袋帯や着尺を製織している。帯の製織では、通常はたて糸をフルエという特別な装置でもじる技術を用いて紗を織るが、フルエを用いずに、目で見てたて糸数本単位ごとに手でもじり、太いよこ糸を織り込むといった技術を用いて織物を織ることができる。現在、針金を織り込むビロードの製織をできる職人は少なくなっている中で、その製織技術を持っている非常に貴重な存在である。織機の構造にも精通している。これまでに織機調整のプロに教えてもらった多くの経験を生かし、自ら織機の調整や修理などを行うことができる。（勤務先：北区）

▽　鳥居　秋代（とりい　あきよ）（西陣織（かけつぎ工））



西陣織の「かけつぎ」は、製織した織物内に発生したキズを修復するために行われる。糸や箔などの欠落が発生している場合は、拡大鏡で織物組織などを観察しながら、縫い針等を用いて手作業でキズ部分に糸や箔などを挿入し、傷のない状態にする。

「かけつぎ」をするためには、多種多様な織物の組織等についての知識が必要であるとともに、傷を修復するための確かな技術が必要である。これらの知識や技術を有している貴重な人材であるのは、長年、手機の製織をしていたため組織についての知識が非常に豊富であり、傷部分の適切な位置への糸などの挿入や糸の張力の異常の修復等ができることから成せる技である。（勤務先：北区）

▽　西山　昌志（にしやま　ひさし）（西陣織（表装金襴製織））



長年にわたり製織業務に携わっていること等から、様々な種類の糸の持つ特徴、織物組織、製織に関する豊富な知識と経験がある。また、古い表装裂地を復元する仕事も行っており、客先の多様な要望に答えてきた実績があり、高い評価を受けている。また、復元した生地を現代のアパレル用の生地に生かすことによって、新たなモノづくりも行っている。このようなモノづくりを行う際は、依頼者の要望に沿った風合いの織物を製造するため、織り込むよこ糸の合わせ方を工夫し、織物に後加工を施す等、伝統的な技法を守りながら、新しい分野にも積極的に挑戦をしている。（勤務先：上京区）

【染色　部門】

▽　市川　和幸（いちかわ　かずゆき）（京友禅（下絵））



京友禅の制作において、意匠図案を企画・考案するとともに、白生地から完成品に至るまで、約１５～２０の工程にあった職人を選定し、下絵、配色、金彩、刺繍、仕上げに至るまで各職人への指示・調整を行う総合プロデューサーとして、長年にわたりその役割を担っている。下絵技術の研鑽を重ねるとともに、琳派の意匠について長年研究を重ねてきた結果、絵羽物に琳派文様を施した作品を得意とし、手がけた訪問着は高い評価を得ている。また、きもの業界の振興にも尽力し、特に作品競技会を積極的に企画・運営し、需要拡大や京友禅技術者の育成に貢献してきた。（勤務先：中京区）

▽　北尾　秀夫（きたお　ひでお）（京友禅（浸染））



各種の染色機を使用しながら無地の絹織物の浸染を行っており、色ムラを防ぎたいときには攪拌効率の高いウインスを扱い、生地がデリケートな場合はスレが起こりにくい吊染機を使用するなど、状況に応じて染色機を使い分けている。目視と経験によって色合わせを行う染色技法で染めており、染料を適宜つぎ足しながら染め上げ、依頼者の指定した色に対してオーダーメイドで対応しており、ムラがなく、依頼通りの仕上がりを実現しているため高い評価を受けている。また、浸水に使用した染料・薬剤の配合を記録することで、色合わせの精度を高めている。（勤務先：下京区）

▽　橋本　弘嗣（はしもと　ひろつぐ）（京友禅（型染））



糊置きを中心に引染を含む工程について、自社で加工を行っており、後工程が作業をしやすいように留意しながら日々の作業を行っている。防染糊と蝋を併用した特殊な技法の経験を持つなど、技術の研鑽を続けており、現在も使用する道具の調整をはじめ、色合わせ、糊の調合から糊置き、引染など多くの工程を自身で行っており、高い技術を有している。また、着尺柄などの伝統的なきものの染色だけにとどまらず、様々な製品の染色に挑戦している。イタリアやフランスのバッグメーカー等から注文があり、伝統産業業界以外の事業者からも高い評価を受けている。（勤務先：右京区）

【諸工芸　部門】

▽　小野　泰宏（おの　やすひろ）（京人形（衣裳着））



京人形、とりわけ京雛の制作において着付け師が果たす役割は極めて大きく、単なる装束の着せ付けを超えた高度な造形芸術の域に達している。二次元の平坦な織物から、気品と重厚感を兼ね備えた三次元の優美な立体美を紡ぎ出す手仕事は、日本の伝統工芸が培ってきた至高の美意識と長年の修練によって磨き抜かれた熟練の技の結晶である。胴組み、襟巻き、着せ付け、腕折りという一連の工程を一貫して高次元で体現する職人であり、京人形の格式と品格を未来へと継承する極めて高い技術を有している。（勤務先：上京区）

▽　谷川　清遊（たにがわ　せいゆう）（きせる）



家業の煙管竹商として羅宇（らう）の製造を生業とする９代目だが、雁首（がんくび）と吸い口の加工技術にも長けている。以前は、きせるの各工程に職人が多数おり、羅宇（らう）の交換を専門に行っている職人もいたが、現在ではきせるの喫煙者が減ったことで、職人が減少しており、大切な日本の文化である「きせる」を残すために煙管が持つ文化としての素晴らしさを伝え、「たばこ」の悪いイメージを日本の良き文化として再構築する活動に尽力している。特に、煙管製造は、各パーツ単体の機能性と、それらを隙間なく一体化する加工が必要な非常に高い技術を有する作業である。（勤務先：下京区）

▽　村岡　賢治（むらおか　けんじ）（京漆器（木地師））



５年以上じっくりと乾燥させた天然の木材を用い、乾燥や環境の変化により「反り」、「狂い」、「木の相」を的確に見極め、削る方向や角度を緻密に判断・計算して加工を行う、高度な木工・指物技術がある。特に和物の茶道具や「水指の蓋」などにおいては、寸分の狂いもない精密な噛み合わせが求められ、水指の口部分が真円に見えても、実際は、楕円形になっているなどの職人にしか分からない感覚を持っている。また、後工程である漆の塗り代を考えながら作業をする必要があるなど、非常に高い技術が求められる工程である。（勤務地：左京区）

▽　山田　東哉（やまだ　とうさい）（京焼・清水焼）



初代の時代に確立した成形・釉薬・意匠の技術を自ら現代に合う形やお客様が求める形に変えながら作品作りに携わっている。飲食店やホテル等の依頼者が求める商品の図案から、職人への依頼、そして納品までを担ってきたが、自身の手掛けた作品が欲しいとの依頼がある程、高い技術力を有している。また、すべてを自社で賄わず、磁器素地と陶器素地はそれぞれ得意な陶工に外注し、多品種かつ、完成度の高い製品を生み出し、依頼者の要望に応えてきた。少量生産が可能で、寸法や図案の変更にも柔軟に対応している。（勤務地：東山区）

【食品　部門】

▽　後藤　嘉之（ごとう　よしゆき）（京菓子）



和菓子の製造が機械化されていく中で、手作業の技術を継承することが重要であると考え、御倉屋の看板商品である「旅奴」の製造過程を大型の機械ではなく、代々継承されてきた熟練の技術と勘により、主要な工程は手作業で制作している。黒砂糖をまぶしていく過程は、家族で分担されており、連携を取りながら伝統的な和菓子作りを行っている。機械であれば難なくできる作業を、手作りにこだわり、その風合いを伝えたいという熱意を感じ取ることができる。実際にできあがった「旅奴」は、均等・画一的ではなく、少しばらつきがあるが、そのことがかえって手作業のぬくもりを感じることができる。（勤務先：北区）

▽　渡邊　勝志（わたなべ　かつし）（京漬物）



野菜の特性や季節に応じて冷蔵仕込みと常温発酵を使い分けている。冷蔵仕込みを行う糠漬けでは、糠を足しながら長期間育成した発酵糠を継続して用い、塩分濃度は健康的な数%に抑えることで、雑菌汚染のリスクを伴うが、酸素を遮断した冷蔵発酵により産膜酵母をはじめとする雑菌の制御を行っている。糠床内の微生物環境を長年にわたり維持し、味の安定化を図る技術は他の追随を許さない熟練技と言える。糠の変化に伴う漬物の変化を敏感に察知し、糠の追加量・温度・水分量を細かく調整して糠の状態を維持している。さらに、漬け込む野菜によって糠を変え、野菜そのものの味・鮮度・みずみずしさや色合いを最大限にいかした製造を行っている。（勤務先：上京区）

（別紙２）

令和８年度京都市伝統産業「未来の名匠」認定者（敬称略、順不同）




氏　名：池内　真広（いけうち　まさひろ）
業　種：手描友禅染
勤務先：池内友禅（右京区）
作品名：七歳四つ身着物「山桜に紅葉　雲取文」
（ななさいよつみきもの「やまざくらにもみじ　くもどりもん」）

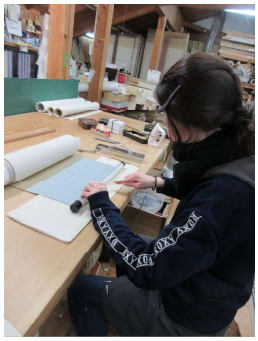
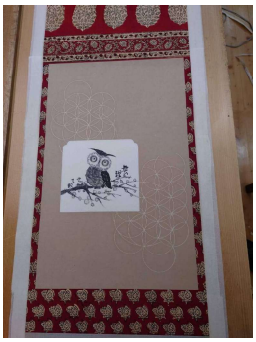




氏　名：石川　良（いしかわ　りょう）
業　種：京漆器
勤務先：株式会社石川漆工房（伏見区）
作品名：波紋＆涛（はもん　なみ）




氏　名：上坂　妙（うえさか　たえ）
業　種：京焼・清水焼
勤務先：（左京区）
作品名：白菊蒼穹茶盌
（しらぎくそうきゅうちゃわん）

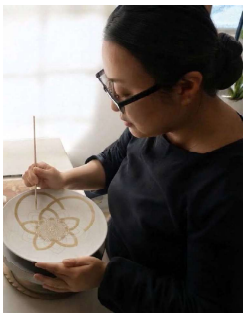
氏　名：大西　律子（おおにし　りつこ）
業　種：京表具
勤務先：株式会社静好堂中島（北区）
作品名：不苦労（ふくろう）




氏　名：梶山　智美（かじやま　ともみ）
業　種：京真田紐
勤務先：真田紐師江南（東山区）
作品名：昊の光線（そらのこうせん）



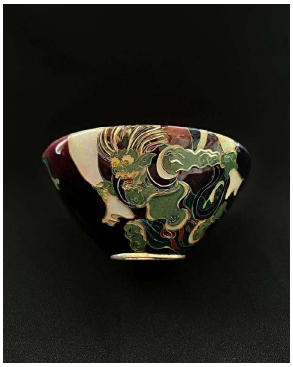

氏　名：田中　栄人（たなか　ひでと）
業　種：京友禅
勤務先：田中金彩工芸（上京区）
作品名：金彩杜若図（きんさいかきつばたず）




氏　名：深田　香奈重（ふかた　かなえ）
業　種：京焼・清水焼
勤務先：緑香窯（北区）
作品名：雲母彩色絵茶盌
（うんもさいいろえちゃわん）




氏　名：牧　圭太朗（まき　けいたろう）
業　種：京の神祇調度装束品
勤務先：有限会社牧神祭具店（上京区）
作品名：御霊代辛櫃・楊筥
（みたましろからひつ・やないば）

氏　名：室井　麻依子（むろい　まいこ）
業　種：京七宝
勤務先：有限会社ヒロミ・アート（西京区）
作品名：銅胎　銀有線七宝　盃　風神雷神図
（どうたい ぎんゆうせんしっぽう はい ふうじんらいじんず）




氏　名：横山　裕樹（よこやま　ゆうき）
業　種：京竹工芸
勤務先：有限会社横山竹材店（上京区）
作品名：やたら編ベンチ（やたらあみべんち）